

## 平成22年新春セミナー・賀詞交歓会

1月25日、メルパルク東京にて、新春を迎えるにあたり 昨年放映されました フジテレビ開局50周年記念番組「黒部の太陽」のプロデューサー菊地裕幸氏を講師に迎え、制作時エピソード等を交えトンネル工事に対する熱き思いを語って頂き、明るい展望、自信を取り戻すべく新春セミナー並びに賀詞交歓会を開催致しました。

### 新春セミナー



#### 副会長 木部嘉隆より挨拶 (野崎正和会長代理)

昨年は当協会にとりまして大変大きな節目の年でありました。一つは、当初からの念願でありました一般社団法人

の認可を受けることが出来ました。

二つ目は、会の重要事業として進めてきた基幹技能者の育成事業が国交省からトンネル技能者講習機関という登録認定を受けることが出来ました。この基幹技能者につきましては、一部の地方自治体で総合評価方式の加算が検討され、実現性が高まっています。

現在我々はデフレ経済の下、公共事業予算も削減され非常に厳しい状況ではありますが、優秀な人材の確保、これが企業にとって大きな使命になると確信しています。又、商品開発改良委員会においても、職業疾病の手引き等の成果品を作り、厚労省から大変注目されています。

今後とも、会員全員で協力、研鑽を重ね厳しい状況に対応していきましょう。

#### 副会長 菊池二二年より閉会挨拶

建設業界を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが、今まさに転換期を迎えようとしております。これまで国土の発展に貢献してきた、又、地域の経済や雇用を支えてきた建設産業は社会資本の基幹産業であります。

公共投資は年々縮小傾向であります。我が国は平地の少ない国土であり、まだまだトンネルの計画もリニューアルを含め数多くあるはずで

本日の講演にありました「黒部の太陽」のごとく、トンネルを作る仕事は危険と背中合わせであり、あらゆる技術を駆使しなければ掘ることはできません。

又、未知なる世界を切り開く訳ですから、経験と勘が物をいう世界であり、大変難しい反面、夢もある仕事です。

本協会と致しまして、このような夢のある仕事に従事する皆様がより誇りとやりがいを持つことが出来ますように、国や国民そして全国に発信していきたいと思



### 新春講演：「今なぜ、『黒部の太陽』なのか」ー 大作ドラマが現代に残すメッセージー

<写真は熊谷組提供>



今の世の中を作ってきたのはテクノロジーだけではなく、先人の方々の努力だったり、目に見えない力によって支えられていることをテーマとして描きたいと思いました。

トンネルなどは供用されればあって当たり前になってしまう、事故などが起これば非難されてしまいますが、陰で支えてくれる人がいることがもう少し伝わればいいと思います。



(プロデューサー 菊地裕幸氏)

## 賀詞交歓会



### 会長 野崎正和より挨拶

「私の父も黒四ダムに従事しました。父に連れられて奥只見のトンネルに入った覚えもあります。協会の方々はそのDNAを受け継いだ人がほとんどだと思います。

われわれトンネル専門工事業者は、先人が築き上げた技術を継承していくのが使命だと思っています。また、日本のトンネル技術は世界でもトップクラスで、現場の結束力は他に類を見ないほど強いと思います。その力をもっとアピールして建設業界のすばらしさを伝えていきたいと思っています。厳しい経営環境ですが、基幹技能者の育成や後継者づくりを進め、力を合わせて難局を乗り切っていきましょう。」

全国から参集された会員の皆様は、互いに新年の挨拶を交わし合い、決意を新たにされました。



### 《 来賓の方々より 》

#### 国土交通省大臣官房技術調査課長 横山 晴生 様



建設業また私達の社会資本整備につきましては、厳しい状況下にあります。ただ私達がやっている公共事業の土木技術は大変大きな意味があるものと思いますし、日本の土木技術は世界的に見ても高い水準であると思います。その技術を私達が先輩からしっかりと受け継ぎ、そして後輩に継承することが重要であると思います。

#### 国土交通省総合政策局建設市場整備課労働資材対策官 松本 貴久 様



55歳以上の方が3分の1以上占めているというのが建設業労働者の実態です。現段階の世代の皆様が5年たつと抜けてゆくこととなりますが、そこに若手の方にしっかり入って頂く必要があります。しかし、実際には建設労働をめぐる状況は非常に厳しく、若手の人に何か目標を持って入って頂かなければなりません。人口が減少する中で、人材の面や技術の承継は難しい問題であると思いますが、この問題を考えていく一年にして貰えれば幸いです。

#### 厚生労働省労働基準局安全衛生部建設安全対策室長 田中 敏章 様



建設現場の労働災害防止については、工事を直接施工される皆様方専門工事業者における教育が必要不可欠です。山岳トンネル工事では計画の上からも施工側に立ったご苦勞を読み取ることが出来ます。しかしながら実際の現場においては、閉ざされた作業空間の中で地山状況の変化或は水やガスの噴出など計画では想像していなかった事態に常に遭遇しながら作業しておられます。皆様方の研究と努力なくして安全作業を行う事が出来ないと思っています。これまで培われてきたトンネル工事に対する技術のノウハウを存分に生かし、さらなる飛躍の年となるように心から願っております。

#### 厚生労働省労働基準局安全衛生部環境改善室長 亀澤 典子 様



昨年の秋ごろ三重県の尾鷲でトンネルの工事を拝見し、そのトンネルを掘らなければ海の近くの道路しかないという生活に根ざした道路を作るものでした。トンネルを掘っている様子をまざまざと拝見しまして、その熱意に大変心を打たれました。私達におきましても、保護具につきまして現場で実証的な研究をしており、今年度まとめる予定です。

#### 財団法人建設業振興基金理事 福島 稿成 様



物作りは技術が伴わなければならない仕事です。その物作りの評価をするのが国土交通省様が認定しました登録基幹者技能者制度です。この制度を付加して今後トンネル専門工事業協会様に頑張って頂きたいと思っています。

#### 建設労働災害防止協会専務理事 伊藤 正人 様



平成8年と平成20年の年間建設投資の減少率と死亡者数の減少率を比較すると、年間の建設投資額が50%減少の一方、死亡者数の減少は57%の減少になっていて、単に工事量が減ったから死亡者数が減ったという事ではなく安全衛生水準が着実に向上してきている表れであると思います。皆様とこれから力を合わせて、一人でも悲しい人が出ないように、労働災害撲滅に努めて参りたいと考えております。

## 現場見学研修会

平成21年11月29日～30日に開催しました山形県鶴岡市での現場見学研修会には、会員企業の経営者だけでなく現場担当者も参加され、約80人が現場見学・研修されました。

**狙い：**現場の品質、安全、環境などへの取り組みを見学し、意見交換することで、良いところは自社の施工現場にも取り入れ、「こうした方がより効果が上がるのでは」といったことをお互いに情報交換することで、会員企業同士がトンネル施工のレベルを高める。



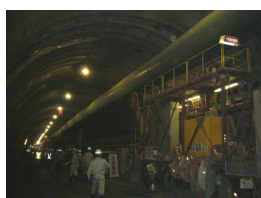
今回の見学・研修会は、間組・西武建設JVと鹿島建設の施工現場で行われ、トンネル専門協の会員の木部建設と北新建設が協力会社として施工に参画していました。両工事とも、環境や安全面に配慮して、ずりの搬出にベルトコンベヤを採用していたのが特徴の一つです。

温海トンネルでは、親ベルトコンベヤの上を子ベルトコンベヤが走行する構造になっている伸縮ベルトコンベヤを採用していました。子ベルトコンベヤを前に出すと伸び、後ろに下げると縮まります。簡単に伸縮することで施工箇所との間隔を最適に保つことができ、効率的に掘進できるといいます。さらに、ずり出しに大型ダンプを使用する場合に比べ、坑内のダンプの排ガスや走行による土砂の巻き上げによる二次粉塵を削減でき、作業環境を大幅に向上させることが可能です。

切羽からのベルトコンベヤと避難坑に設置された連続ベルトコンベヤと避難坑連絡坑に設置したベルトコンベヤでつなぐ、「コの字」型にベルトコンベヤを設置して、大型車両を使用することなく、処分場所まで搬出していました。また、コンクリートの温度の低下を防ぐためにセントラルバルーン、温度の低下と水分の蒸発を防ぐためにコンクリートバルーンを採用していたのも特徴です。



堅苔沢トンネルでは、ベルトコンベヤでのずり出しのほか、防音扉・防音壁やトンネル排水をきれいにする水処理設備を設置していました。地滑り地域であり、現場の地質の凝灰岩や泥岩は掘る上で注意が必要なことから、掘削前に前方予測を行い、情報化施工していました。覆工コンクリートの養生には、養生水噴霧台車を使用し、散水養生を実施していました。



29日に両現場を見学した後、30日に鶴岡市温海温泉林業センターで研修会を行いました。両トンネルの施工に携わっている協会会員企業の木部建設(温海トンネル)と北新建設(堅苔沢トンネル)の所長より現場の取り組みについて説明を受け、質疑応答を行いました。



### 野崎会長より

「山岳トンネルの現場にベルコンが採用されたのは10年ほど前、現場の技術・技能は着実に進歩しています。他の現場を見て自分の現場に持ち帰ることで、レベルアップにつなげていって欲しいと思います。日本の土木工事は少なくなっていますが、海外で仕事をする前に、国内をきちんと整備し、安全に行う施工力を高めておかなければなりません。行政にも色々な形で意見を言い、改善できるようにしていくつもりです。」

## 登録トンネル基幹技能者講習 開始



第1回登録トンネル基幹技能者講習

登録基幹技能者制度に移行して初の講習会を昨年11月17日～20日千葉県佐倉市の建設業安全衛生教育センターで、第2回目を今年2月2日～6日に兵庫県三田市の三田建設技能研修センターで開催しました。

野崎正和会長は挨拶で「年々、専門工業者に要求される担当範囲は広がりつつあります。ゼネコンの社員と同様の品質や技術、管理の知見のレベルが要求される時代もそう遠くありません。皆さんが、登録トンネル基幹技能者として、現場で若手技能者に信頼され、ゼネコンの所長に評価される活躍をすることが、この難局を乗り切る手立てだと確信しております。また、そのことが登録トンネル基幹技能者の評価を高め、活躍の範囲が広がってゆくとおもいます。」と述べました。

講習内容も今回より協会が独自に作成した専門テキストを使用する等、更に充実したものとなりました。この専門テキストは、実行予算や工程表の作成など実際に現場で使用しているものを取り入れ、現実のトンネル工事に即したものとなっており、より専門性を増したカリキュラムになりました。



また、評価の点では、職長の共通業務・品質管理・原価管理・工程管理・安全管理の5つの視点からなる協会独自の能力自己診断シートを使用しております。受講者に現在の自分自身の理解度を考えてもらい、今後の自己研鑽につなげてもらうのを目的とし、実際の試験成績からの理解度とを組み合わせた総合評価を行っています。5年毎の更新時に、どれだけ成長したか自分自身で分析してもらえたらと思っております。

今回より、受講対象者が当協会の会員以外の方でも可能になりましたので、これを機に会員内外を問わずふるって受講し、レベルアップと資格を取得して頂きたいと思っております。

## 会員動向（平成21年10月～）

- 入会 白岩工業(株) 代表取締役 白岩正通（土木工事業、建築工事業）  
山崎建設(株) 代表取締役社長 中洞好博（土木工事業、建築工事業、とび土工事業）  
東洋電機工業(株) 代表取締役 皆川英生（電気工事業）



## 事務局便り

- NTS会報23号をお届けします。今回は1月25日の春季セミナー・賀詞交歓会、11月29日～30日の現場見学研修会、11月・2月の第1回・第2回登録トンネル基幹技能者講習会を取り上げ記事といたしました。
- 行事予定
  - ・理事会、意見交換会、懇談会 平成22年4月19日(月)
  - ・第3回定時社員総会 平成22年5月21日(金)
  - ・登録トンネル基幹技能者講習 平成22年度第1回(東日本会場)：平成22年7月20日(火)～7月23日(金)  
平成22年度第2回(西日本会場)：平成22年11月16日(火)～11月19日(金)
  - ・秋季セミナー 平成22年9月16日(木)

この会報に対するご意見・ご感想、又ご入会に関する詳しいお問合せは下記の事務局までお願いします。



一般社団法人 Association of Nihon Tunnel Construction Contractors  
**日本トンネル専門工事業協会**

〒105-0003 東京都港区西新橋1-9-1 ブロードリー西新橋9階

TEL:03-5251-4150 FAX:03-3591-3550 URL : <http://www.tunnel.jp>